

13. 映像素材から見た環境教育教材

福井 康雄

1. はじめに

映像教材の制作に当たっては、いかに映像的な魅力に溢れた素材を選ぶかが、一つのポイントとなるが、環境教育教材の場合には、とりわけ、その映像素材の良否が、教材の成果にかかってくる度合いが多いように思われる。

環境教育指導資料（文部省）に示されているように、環境教育は、特に、そのための教科が設けられるわけではなく、全ての教科等において行うのが望ましいとされている。新高等学校指導要領でいえば、国語、地理歴史、公民、理科、家庭、芸術、保健体育、特別活動等々…といった多岐にわたる教科がそれにあたる。そして、その多種多様な教科の間には、相互の関連性をもたせながら、総合的、相互関連的な、学校の教育活動全体を通じての位置づけの上での学習の展開が示唆されている。

上記からすると、環境教育は、それに取り組む教師にとって、極めて応用範囲の広い、工夫の余地の大きい教科であるように見える。したがって、その授業で用いる教材も、勢い、選択の余地が極めて大きい、多彩なものとなってくる。このように、教材が数多くあるということは、豊かな授業の展開につながることであり、利用者の教師にとっても望ましいことであろう。しかし、一方、教材選択の自由度が大きいという、正にそのことが、何を、どう取上げるかが、ある程度、あらかじめ見えている、従来の教科とは違って、環境教育の場合、教材の焦点化を困難にしている…ともいえそうだ。

これまでの、教師教育教材の《環境教育編》の制作を振り返ってみても、教材を特定していく過程が、多くの場合、最も困難な作業となってきた。

従来の教科の場合、教師教育教材の制作は、まず、取り上げる主題（単元）の選択→次に、指導案の作成→そして、取材計画（あるいは、シナリオ）の設定、といった段階を経て進められてきた。しかし、環境教育を扱う場合には、まず、数ある、多くの教科の中の、どれを取り上げるかが問題になる。限られた時間の中で紹介するとすれば、せいぜい、2～3種類の教科が限界であるし、とすれば、その教科で環境教育の典型を描けるのかどうかの検討をしなければならない。また、一本の映像教材に納めるとすれば、選択した複数の教科の間に、いかに、有機的な関連をもたせるかといったことにも配慮しなければならないだろう。そして、こうして、取り上げるべき教科が決定した後で、主題を設定し、教材を選択していくことになるが、教科が複数にわたっている上に、そこに、映像素材としてより適しており、しかも、出来るだけ相互に関連性のあるものという条件などが加わるだけに、映像素材の絞り込みの作業は、勢い、複数で困難なものになってくる。

環境教育は、新学習指導要領の改訂に当たって、特に、指導内容の充実の図られた教科であり、新たな展開が期待されている教科である。しかし、上で見たように、きわめてターゲットの絞り込みにくい教科であることも事実であり、現実の指導の現場では、今しばらく、新しい指導方法を求めている思考錯誤が続くこととなるのではないだろうか。それだけに、環境教育で

は、教材として何を取り上げるかが、大きなポイントとなるのであり、また、そうして取り上げた教材の良否が、直接、授業の成果に結び付いていくことにもなるのだといえるだろう。

環境教育教材の、極めて重要な要素の一つである教材に着目し、その具体的なサンプルともいえる映像素材に視点を据えて、環境教育の在り方について見つめてみることにしたのである。

2. 考察の手順について

本稿では、先ず、これまでに制作された環境教育教材では、どのような映像素材が取り上げられてきたかを見ていくこととする。環境問題が教育の現場に取り入れられるようになって以来、環境教育教材として数多くの映像が制作されてきたが、そこに取り上げられている映像素材にはどのようなものがあり、それらは、どのような傾向を示しているのだろうか？ 既制作の映像教材で取り上げられている、映像素材の流れを見ていくことで、これまでに制作されてきた環境教育教材の方向性や問題点などをつかんでみようというのが、その“ねらい”である。このように、映像素材によって、従来の環境教育の流れや問題点を概観したところで、次に、これまでの教師教育教材プロジェクトで制作されてきた環境教育教材での映像素材について見つめてみることにする。当プロジェクトでは、平成5年度から、本7年度まで《小学校編》、《中学校編》、《高等学校編》の合計3本の環境教育教材ビデオを制作してきた。それらは、いずれも、教師が環境教育を展開させる場合の指導事例を描いたもので、環境問題そのものをストレートに扱った、いわゆる環境教育教材とは、その目的を、やや異にする。しかし、そこで取り上げる主題や映像素材は、いわゆる環境教育教材とほとんど重なるものであり、教材の焦点化の複雑さや困難さという点では、ほぼ、同等の基盤に立つものと言ってよいだろう。教師教育教材については、幸い、これまでに蓄積されてきた研究報告等によって、それぞれの教材の開発過程が明らかにされている。それらを辿ることで、映像素材が特定されていった経過を見つめることも出来るだろう。また、そうした、比較的、制作過程のデータの整った教師教育教材《環境教育編》の映像素材を、既制作の環境教育教材のそれともつぎ合わせて検討していくことで、より効果的な環境教育教材についての新たな展望も開けてきはしないだろうか？ 以上のように、環境教育にかかわる映像素材を、既制作の環境教育教材と教師教育教材の二つの方向から総合的に見つめていくことで、環境教育教材の在り方等を探ってみよう、というのが本稿の最終的な“ねらい”である。

3. 既制作の環境教材における映像素材

これまでに制作された、環境教育映像のデータとしては、雑誌『視聴覚教育』（〈財〉日本視聴覚教育協会、1994年7月号）所載の「〈環境教育〉映像メディアリスト」を利用した。

この映像メディアリストに掲載された映像作品は合計67作品、1977年から1994年にいたる環境教育関連の市販作品や受託作品が、ほぼ網羅されている。環境教育映像は、1995年度にも、引き続き制作されているが、環境教育教材の映像データとしては最新のものであり、環境関連作品の映像素材の最近の傾向を概観するには、十分な資料ではないかと考える。そのリストの中から、社会教育用の教材26作品を除き、学校教育教材に関連する41作品について、対象者別に整理し、再構成したものが以下の表である。

(1) 対象者別・映像メディア

○小学校教材

	タイトル	制作年月	時間	主題／教科	メディア	制作社
①	自然環境と人々の生活	1983・9月	18分	産業活動と環境(社会)	ビデオ	アポロン
②	ごみのゆくえ - せいそう工場 -	1986・5月	20分	ゴミの処理(社会)	16ミリ ビデオ	共立映画
③	わたしたちのくらしと ごみのしまつ	1990・8月	20分	ゴミの処理(社会)	16ミリ ビデオ	東映教育
④	森林と私たち	1991・2月	20分	森林資源の保護(社会)	16ミリ ビデオ	映像舎
⑤	文太と良夫のタイムトラベル	1991・5月	10分	環境美化(社会)	16ミリ	映像舎
⑥	ごみのしまつ	1992・4月	19分	ゴミの処理(社会)	ビデオ	東京書籍
⑦	人とかんきょう	1992・4月	17分	環境保全(理科)	ビデオ	東京書籍
⑧	森じいさんの贈りもの	1993・3月	21分	森と緑の恩恵(理科)	16ミリ ビデオ	中日映画
⑨	リサちゃん地球へ	1993・3月	15分	ゴミ処理とリサイクル (社会)	ビデオ	映像舎

○中学校教材

①	地球号SOS	1992・3月	20分	地球の環境問題(社会)	16ミリ ビデオ	桜映画社
②	浜辺のゴミから環境が見える	1993・4月	10分	暮らしの中の環境汚染 (家庭)	ビデオ	学 研
③	滅びゆく生物たち 水生昆虫の世界	1993・2月	20分	自然環境の保護(理科)	16ミリ ビデオ	東映教育
④	ごみのしまつと再利用	1993・4月	19分	ゴミの処理(社会)	ビデオ	東京書籍
⑤	健康と環境	1993・4月	18分	環境保全と環境(保体)	ビデオ	東京書籍
⑥	あした - わたしたちの地球 -	1994・3月	22分	地球環境問題(社会)	16ミリ ビデオ	中日映画

○中学校・高等学校教材

①	地球と環境	1991・2月	20分	地球環境問題(社会)	ビデオ	桜映画社
②	地球と環境 1 地球の 温暖化・オゾン層の破壊	1991・4月	29分	地球環境問題(社会)	ビデオ	東京書籍
③	地球と環境 2 熱帯林 の減少・酸性雨	1992・4月	28分	地球環境問題(社会)	ビデオ	東京書籍
④	地球と環境 3 海洋汚 染・都市型生活型公害	1992・4月	28分	地球環境問題(社会)	ビデオ	東京書籍

○学校教育・社会教育の併用教材

(小学校／少年向き)

①	わたしたちにできること	1993・12月	15分	環境の美化(社会)	ビデオ	日映科学
---	-------------	----------	-----	-----------	-----	------

(小学校・中学校・高等学校／少年・青年・成人向き)

②	キレイになりたい- 守ろ うゴミの正しい出し方 -	1990・3月	13分	ゴミステーションの利 とゴミの処理	ビデオ	映像舎
③	ぼくはゴミじゃない	1991・3月	10分	ゴミの処理とリサイク ル	ビデオ	映像舎

(中学校／少年・青年・成人)

①	人間と環境	1977・	20分	湖の水質の汚染原因の 調査	16ミリ	電通プロッ クス
②	川の生物と環境	1984・12月	23分	川の生物分布と水質	16ミリ ビデオ	東映教育

(中学校／青年)

③	取り戻そう さわやかな空気	1990・8月	20分	地球大気環境問題	16ミリ	東京・シネ ビ デ オ
④	コスモス大作戦	1992・12月	15分	資源の回収と植樹	ビデオ	日映科学

(中学校／青年・成人)

⑤	環境にやさしい暮らし の工夫	1993・9月	19分	生活排水・ゴミの処理	ビデオ	東映教育
⑥	まもろう水鳥の生息地 - 湿地の保全 -	1994・1月	23分	湿地の環境保全 (ラムサール条約)	ビデオ	東京・シネ ビ デ オ

(中学校／成人)

⑦	川の生きものと水質	1984・12月	23分	川の環境保全	16ミリ	東京・シネ ビデオ
---	-----------	----------	-----	--------	------	--------------

(中学校・高等学校／少年・青年・成人)

①	トンボが語る自然環境	1991・2月	26分	自然環境保護	16ミリ	東映教育
---	------------	---------	-----	--------	------	------

(中学校・高等学校／青年・成人)

②	環境・今私たちにできること	1991・9月	29分	地球環境保護	ビデオ	全国農村 映画協会
③	土の世界から	1991・12月	32分	土中の微生物の共生と働き	16ミリ ビデオ	桜映画社
④	私たちの環境宣言	1992・3月	30分	共同組合の環境行動	ビデオ	全国農村 映画協会
⑤	地球カタログ 地球のきもち	1993・4月	65分	気象映像の解説	L D ビデオ	パイオニア L D C
⑥	冬の多摩川 - 鳥たちの一日 -	1993・3月	17分	郷土の自然環境理解	ビデオ	東京・シネ ビデオ

(高等学校／青年・成人)

①	水質の保全 - ホテイア オイの働き -	1985・12月	5分	水質浄化実験と実践活 動	16ミリ ビデオ	東映教育
②	大気汚染と健康	1994・3月	25分	環境保全の大気汚染編	ビデオ	毎日EVR
③	水質・土壌汚染と健康	1994・3月	25分	水質汚濁と土壌汚染	ビデオ	毎日EVR
④	自然環境とその保全	1994・3月	25分	地球環境問題(温暖化、 酸性雨、オゾン層破壊)	ビデオ	毎日EVR
⑤	上・下水道とその整備	1994・3月	25分	環境衛生活動	ビデオ	毎日EVR

(高等学校／成人)

⑥	森の詩 - 都民の森の四季 -	1990・5月	42分	人と森との関わり(森 林生態系)	16ミリ	東京・シネ ビデオ
---	--------------------	---------	-----	---------------------	------	--------------

以上を、さらに、教材の対象者毎の作品本数で分類してみると次のようになる。

小学校教材	12本（内・社会教育と併用 3 本）
中学校教材	13本（内・社会教育と併用 7 本）
高等学校教材	6本（社会教育との併用作品のみ）
中学・高校併用教材	10本（内・社会教育との併用 6 本）

この結果から、まず、窺えるのは、中学・高校併用というように、対象学年をあまり絞らずに制作されている作品が、少なくないということである。また、教材のジャンルを見ても、合計41作品のうちの、ほぼ半分当たる22作品が学校教材と社会教育教材の併用という形で作られており、環境教育映像の場合、対象者や利用場面を出来るだけ絞り込んで制作される従来の教材映像とは違って、かなり幅の広い、多方面での利用を前提とした作り方が特色となっているように見える。

このことは、「特定の教科を設けず、各教科や道徳や特別活動の中で行う…」とされた、環境教育の基本方針とも無関係ではないだろう。制作者側からすると、教科を特定しないということであれば、なるべく多くの対象者に見てもらえる多目的な作品をねらって、対象者の幅を出来るだけ広げておきたい。上記の作品は、ほとんどが市販用に制作されたものなので、それは、販売政策の上からも望ましいことであつたろう。また、同様に、学校教材と社会教育教材の併用作品が多いことも、「環境教育は、生涯学習の大きな対象であり、学校における環境教育は生涯教育の基礎的部分として位置づけられる必要がある…」と、指導資料などで学校教育と社会教育との連携が示唆されていることとの関連でとらえることが出来るだろう。制作者側からすれば、上のような指針があるとすれば、対象学年の併用作品の場合と同様、出来るだけジャンルを絞らず、学校でも、また、家庭や地域でも幅広く利用出来るような多目的な作品をねらって制作するのは自明のことではないだろうか。

では、上記のような特色をもつ環境教育映像を、映像素材という視点から整理してみたら、どのようなことが見えてくるだろうか？ 前期のリストを、映像素材を中心に再構成してみたのが、以下の表である。

（２）映像素材別・映像メディア

○小学校教材

	映 像 素 材	関連教科・単元	本 数（制 作 手 法）
1	環境の美化 （ゴミ処理とリサイクル） <u>計 8 本</u>	4 年社会 「健康な生活の 維持と向上」	5（記録 4、アニメ 1） ※ゴミ収集や清掃工場 の仕組み等

		4年社会 社会教育との併用	3（記録3、ドラマ1） ※ゴミ問題とリサイクル
2	産業活動と環境 <u>計1本</u>	5年社会 「わが国の工業」	1（記録）
3	自然環境（森林等）の 働きと保護 <u>計3本</u>	中学年理科 「生物とその環境」	1（記録） ※緑の働き
		5年社会 「国土の特色」	1（記録） ※森林資源の保護
		高学年理科 「生物とその環境」	1（記録） ※6年単元・人と環境

○中学校教材

1	地球規模の環境問題 （酸性雨、オゾン層等） <u>計3本</u>	社会 「公民的分野」	2（記録）
		〃 社会教育との併用	1（記録）
2	自然環境と生物 <u>計5本</u>	理科 「第二分野」	1（記録） ※水性昆虫
		〃 社会教育との併用	4（記録） ※湖、川、湿地等の生物と環境保護
3	健康と環境のかかわり <u>計1本</u>	保健体育 「保健分野」	1（記録） ※気温、騒音、飲料水等と健康生活
4	環境の美化 （ゴミ処理とリサイクル） <u>計4本</u>	技術・家庭 「J 住居」	2（記録） ※家庭生活とゴミ
		〃 社会教育との併用	2（記録） ※ゴミ減量とリサイクル

○中学校・高等学校の併用教材

1	地球規模の環境問題 (地球の温暖化、オゾン層の破壊、熱帯林の減少、酸性雨、海洋汚染他) <u>計 5 本</u>	社会 中学「公民的分野」他。 高校「地理歴史」「公民」他。	4 (記録)
		〃 社会教育との併用	1 (記録)
2	自然環境と生物 <u>計 3 本</u>	理科 社会教育との併用	3 (記録) ※トンボ、土中の微生物、野鳥
3	環境保全への取り組み <u>計 2 本</u>	社会・特別活動等 社会教育との併用	2 (記録) ※環境行動の紹介等

○高等学校教材

1	地球規模の環境問題 (地球の温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊) <u>計 1 本</u>	社会等 社会教育との併用	1 (記録)
2	自然環境と生物 <u>計 1 本</u>	理科 社会教育との併用	1 (記録) ※森林生態系
3	健康と環境のかかわり <u>計 4 本</u>	理科・保健等 社会教育との併用	4 (記録) ※水質汚濁、大気汚染 土壌汚染等

上記の結果を、さらに、全体的な視野から見るために、対象学年や単元の枠を取り払って映像素材の作品本数を中心に再整理してみると、以下のようになる。

	映 像 素 材	小学校	中学校	中・高併用	高 校	合 計
1	環境の美化 (ゴミ処理とリサイクル)	8 本	4 本	0	0	1 2 本
2	地球規模の環境問題	0	3 本	5 本	1 本	9 本
3	自然環境と生物	0	5 本	3 本	1 本	9 本
4	健康と環境のかかわり	0	1 本	0	4 本	5 本
5	自然環境（森林等）の 働きと保護	3 本	0	0	0	3 本
6	環境保全への取組み	0	0	2 本	0	2 本
7	産業活動と環境	1 本	0	0	0	1 本
		1 2 本	1 3 本	1 0 本	6 本	4 1 本

上の結果を見ると、映像素材は、各対象学年とも、ある一定のテーマに集中していることが分かる。それは、小学校でいえば、「環境の美化（ゴミの処理）」、中学・高校でいえば「地球規模の環境問題」や「自然環境と生物」といったテーマであり、いずれも、環境問題に密着していて、より映像化のしやすい素材に限られている。環境指導資料（小学校編）によれば、「教材等の工夫にあたっては、出来るだけ児童の身近な題材を求めることが重要…」とされているが、環境美化（ゴミの処理）といった問題は、正に、4年社会という単元にきちんと位置付けられた、しかも、児童にとってはきわめて身近で、映像化のしやすい、格好の素材といえるだろう。また、「地球規模の環境問題」のテーマは、中学・高校のレベルで環境問題に取り組む際には、まず、取り上げなければならない基本的な題材であり、内外の魅力的な映像素材にも事欠かない。これらに次ぐテーマである、「自然環境と生物」にしても、昆虫や鳥などの生物と自然環境とのかかわりを扱った、最も映像的ともいえる素材であり、「健康と環境のかかわり」といったテーマも、大気汚染や水質汚濁・騒音などと暮らしとの関連を取り上げた、環境問題の映像素材としては、最もポピュラーなテーマであり、きわめてオーソドックスなジャンルに属するものといえるだろう。

こうして、既制作の作品の映像素材を整理してみると、予想されたことではあるが、全般的に各教科の単元内容の中から、比較的テーマが明確で、また、映像にしやすいものが優先的に取り上げられていることが分かる。このことは、先述したように、利益の追求が基盤となっている市販作品では、ある程度、避けられない傾向ではあろう。しかし、環境教材で要求されている、「すべての教科等において行うのが望ましい…」といった課題を果たすには、まだ、教材の種類や数が少ないようにも見える。この度、取上げた41作品でも、教科は社会と理科がほとんどであり、後の教科としては、保健体育と家庭科が若干本あるだけである。また、環境教育では、「環境の保護と改善に積極的に参加する意欲などを身につける…」ことも、大きなポイントとされているが、資料とした作品には、比較的、知識提供型の映像素材が多く、児童生

徒の意欲作りを引き出すことを主目的としたような教材が少ないようにも見える。

では、上のような傾向をもつ、既制作の環境教育映像作品と比較したとき、当プロジェクトの教師教育教材《環境教育編》で制作された作品は、どのように位置付けられるものだろうか？

以下では、既制作の環境教育映像を見たと同じ方法で、当プロジェクトの作品を見つめながら、両者を比較してみることにしたい。

4. 教師教育教材《環境教育編》における映像素材

当プロジェクトで、これまでに制作された作品は3本。それらを、映像素材を中心に整理してみると次のような表になる。

○教師教育教材《教師教育編》ビデオー各30分・資料一覧

対 象	教 科	指 導 単 元	映 像 素 材
小 学 校	社会科4年	「わたしたちのくらしとゴミ」	①家庭や学校から出る <u>ゴミ</u> 調べ ②地域のリサイクル活動を <u>体験</u> ③調査や体験の結果を <u>発表</u>
	家庭科6年	「呑川をきれいにしよう」	①学校の近くの呑川の <u>調査</u> ②調査結果の <u>発表</u> ③採集した川の水による <u>実験</u>
中 学 校	社会科3年	公民的分野 「環境問題から“地球にやさしい行き方”について考える」	①神田川の汚染状態について <u>調査</u> ②調査の結果 <u>発表</u> ③環境問題についての <u>討論</u> ④エコマーク研究・意見文の <u>発表</u>
	理科2年	第二分野 「雲はどうしてできるか」	①酸性雨の影響 <u>調査</u> （銅像の酸化） ②酸性雨の <u>実験A</u> （酸性雨の原因） ③ 〃 <u>B</u> （酸性雨を作る） ④実験結果の <u>発表</u>
高等学校	公 民 科	現代社会 「資源・エネルギーの需給と地球環境問題」	①各国の環境問題についての <u>調査</u> ②調査の結果 <u>発表</u> ③模擬国際会議での <u>討論</u> ④会議についての <u>感想</u> や自己評価
	理 科	総合理科 「身近な環境問題－水質汚濁」	①目黒川の汚染状態について <u>調査</u> ②調査の結果 <u>発表</u> ③水質浄化の <u>実験</u> （ホテイアオイ、活性汚泥、木炭製造…等） ④木炭による河川の汚水の浄化 <u>実験</u>

上記の3本のビデオでは、各編2種類ずつの教科が取り上げられている。そして、その内訳は社会科関係3本、理科2本、家庭科1本であり、この結果は、既制作品を整理したものとはほとんど同じ傾向を示している。既制作の教材の場合は、市販の作品が多かったため、出来るだけ販売促進につながる主要教科に集中したものとみられたが、教師教育の場合にも、限られた本数と時間の中で、環境教育を紹介しようとする、まず、利用度の高い主要教科に焦点が絞られる結果となった。

では、そこで扱われている映像素材は、どのような傾向を示しているのだろうか？

教師教育は、もともと、教師の環境教育指導のための教材開発を目的とするものである。したがって、環境教育そのものを目的とする既制作の教材と違って、教師教育教材では、児童生徒たちの学習過程が中心となって描かれるため、取り上げられる映像素材は、どうしても、教室（実験室）や学校周辺の地域などが主体となってくる。しかし、そうした条件下でも、映像にした場合、単なる学習の記録ではない、出来るだけ効果的な画面となるような素材をといった検討は毎回行われており、その結果が、教師教育教材の映像素材に、一つの傾向を与えているようにも見える。

まず、全体を通して気づくのは、取り上げた6種類の授業の内の半分で、児童生徒の調査対象として、学校近くの川をとりあげていることである。川が、学校の近くにあれば、それは、児童生徒にとってきわめて身近な存在である。その川を教材として、社会科で、川の周辺の住民からの聞き取り調査をしたり、理科や家庭科で、環境汚染の実態を測定するために、実験用の川の水を採集したりすることも、比較的、容易なことであろう。中学の理科では、学校の近くの銅像の酸化の状態を調査して、その原因を探るため、雨水などを採集して、その酸性度を調べるようすなどが描かれているが、雨も、川と同じように児童生徒にとっては身近な存在であり、「日常生活の中の身近な問題をとりあげていく…」という環境教育の方針に沿ったものともいえるだろう。

次に、目につくのは、特に社会科での調査結果のまとめの部分で、“討論”が取り上げられていることである。“討論”（ディベート）は、その内容が、あらかじめ予測出来ず、また、そこに参加する生徒次第で、その成果が大きく左右されるという面もあり、なかなか映像には取り上げにくい素材である。しかし、出演者に人を得て、討論が、うまくかみ合った時には大きな力を発揮することが期待される素材であり、生徒たちに、環境問題について自主的に考えさせ、主体的な行動を起こさせていくという課題を果たすには、効果的な教材となるだろう。

このように、これまでの教師教育教材《環境教育編》で取り上げてきた映像素材を整理してみると、いずれも、環境教育の研究者や教師が参加して制作されてきた教材だけに、児童生徒が、身近な所から環境問題に取り組んだり、その保全や改善に向かって主体的な行動を起こす動機づけとなるような素材が、〔気づく〕→〔調べる〕→〔発表する〕→〔活動する〕という学習の枠組みの中に、きちんと整理して取り入れられていることが分かる。しかし、その映像素材を既制作の作品のそれと比べてみると、教科の種類の場合がそうであったように、やはり、同じようなジャンルのものに集中する傾向が見られる。小学校の社会科の題材が、既制作の映像素材で一番多かった「環境の美化（ゴミ処理とリサイクル）」の項目に重なるだけでなく、中学校の社会科・理科、高等学校の公民科の題材は、二番目に多かった「地球規模の環境問題」

の項目に、そして、高等学校の理科の題材は、四番目に多かった「健康と環境のかかわり」の項目にびたりと重なっており、教師教育映像でも、その映像素材は、既制作の市販教材と同じようなパターンを示していることが分かった。

5. ま と め

環境教育教材の映像素材を、既制作の市販映像と教師教育教材のものに仕分けし、両者を比較しながら見つめてみた。そこから、教師教育映像についての、なにか新しい視点等が見つかりはしないかというのが、その第一の“ねらい”であった。しかし、そこに浮かび上がってきたのは、予想されたこととはいえ、ほとんどが、映像にし易い、限られた教科や題材を取り上げた、きわめてオーソドックスな作り方の映像教材に仕上がっているという事実であった。

市販映像にしろ、教師教育映像にしろ、最初に取り組むときには、出来るだけ広く利用出来るものをとねらうあまり、題材が、どうしても、無難なものへと傾きがちなのは止むを得ないことなのだろうか？

教師教育教材の制作過程を振り返ってみても、当初は、映像的にも出来るだけユニークなものをねらって出発するのだが、研究会を重ねるに従って、取り上げた素材が、実現出来るものなのかどうか、実現出来たとしても意図どおりの映像が得られるかどうかといった配慮が働いてきて、結局は、平均的な題材に落ち着くといったことが少なくなかった。

しかし、最初に見たように、環境教育の基本的な“ねらい”の一つは、出来るだけ多くの教科にわたって、教科等の間に連携をもたせながら、多角的に推進していくということである。とすれば、環境教育教材の場合、これまでのように、一定の教科や題材にだけ集中するのではなく、もっと、多彩な展開が計られてもよかったのではないだろうか。社会科や理科といった主要教科の教材も、当然必要だが、一見環境教育を実施しにくいような他教科の教材も、平行して数多く開発されていってこそ、環境教育の成果も上がってくるのではないかと思う。確かに、社会科や理科以外の教科での教材の開発は、家庭科を除けば、環境教育と直接結びつくテーマが少なく、教材化のしにくい面をもっている。しかし、映像素材という面から見てみると、そうした分野にこそ、教材開発の余地が、まだまだ残されているようにも見える。むしろ、逆に、映像素材の開発をしていくことの中から、環境教育の新しい一面が開かれていくようなことも起こり得るのではないかと考える。

環境教育は、学校教育ばかりでなく、家庭教育や社会教育などをも通じて、幅広く、生涯にわたって行うものとされている。とすれば、社会教育などの分野でも、もっと、多様な教材が開発されることが必要となってくるであろう。そして、そうした場合、映像教材は、利用効果の高い教材の一つとしてさらに注目されることになるのではないだろうか？

今後とも、環境教育教材のツールである映像素材の、より多角的な研究開発を継続的に行っていくことが望まれるところである。

【参考文献】

- 1) 文部省『環境指導資料（小学校編）』（平成4年7月）
- 2) 文部省『環境指導資料（中学校・高等学校編）』（平成3年3月）
- 3) 『〈環境教育〉映像メディアリスト』（雑誌『視聴覚教育』・財団法人 日本視聴覚教育協会・1994年7月号）